

平成 26 年 8 月 25 日

博士論文審査結果報告書

報告番号

学籍番号 0827022015

氏 名 竹俣 由美子

論文審査員

主 査(教 授) 塚崎 恵子

主 査(教 授) 木村 留美子

主 査(教 授) 表 志津子



論文題名 Awareness on sex education among elementary and junior high school teachers and future challenges

論文審査結果

【論文内容の要旨】

エイズエピデミック以降、我が国においても性教育を包括的教育の中に位置づける考え方が文部科学省から打ち出されたが、その具体的内容は指導要領に示されていないなどの矛盾が生じている。そのため、学校現場における性教育は旧態依然として変わらず、若者の性行動の実態と教育の間には乖離が生じており、10代の人工妊娠や中絶、性感染症は増加し、若者の性に関する健康問題が深刻化している。

そこで、本研究は、教師の性教育に対する認識と今後の性教育の課題を検討するため、現在実施している性教育の内容、子どもの性行動に対する教師の認識、子どもからの性に関する相談の有無等について、小学校教師 242 名と中学校教師 83 名を対象として調査した。その結果、小中学校共に「男女の心の変化」「出産」を指導している割合が最も多く、これに加えて中学校では「性情報への対応」「男女交際」「性交」「性感染症」「避妊や中絶」も指導していた。「性被害」「性加害」の指導の実施率はいずれも低かった。子どもから性の相談を受けた教師の割合は小学校で 15.4%、中学校で 24.4%であり、相談を受けた教師はそうでない教師よりも多くの内容を指導していた。しかし、「性被害」「性加害」に関する指導割合は 3 割にも満たなかった。性教育が進まない理由について、小学校教師は「指導体制の不備」と「指導方法が分からない」、中学校教師は「教師の意識の低さ」と「教師自身の抵抗感」を挙げていた。また、性教育の指導方法について書かれた指導の手引きを読んでいる教師の割合は小学校 32%、中学校 18%と低く、現在もなお教師の性教育に対する回避・消極的姿勢が続き、教育内容の偏りが示唆された。

【審査結果の要旨】

本研究は、このような性に関する調査が現場において受け入れにくい現状の中で、今後の学校教育における若者の性教育を考える上で重要な示唆を与えている。公開審査では研究方法、現場での課題などの質問に的確に回答していた。

以上、学位請求者は本論文の論文審査及び最終試験の状況に基づき、博士（保健学）の学位を授与するに値すると評価する。